

ISSN 2186 – 3989

留学生大学院進学希望者への支援と課題
－専門ゼミナールにおける過去5年間の調査報告－

森田 聡

Support Measures and Issues for International Students
who want to go to Graduate School
－ Survey Report over the past 5 years in the Specialty Seminar －

Satoshi Morita

北 陸 大 学 紀 要
第49号(2020年9月)抜刷

留学生大学院進学希望者への支援と課題 — 専門ゼミナールにおける過去 5 年間の調査報告 —

森田 聡*

Support Measures and Issues for International Students
who want to go to Graduate School
— Survey Report over the past 5 years in the Specialty Seminar —

Satoshi Morita*

Received June 26, 2020

Accepted July 31, 2020

Abstract

This article is to describe the current status and issues of international students' graduate school entrance examinations in the Faculty of Economics and Management, Hokuriku University, which the author's affiliating.

Some universities have a capacity shortage due to the declining birthrate and aging population. On the other hand, for universities that are considering to receive international students according to globalization, it seems meaningful to report the analysis results of the current status and issues of Hokuriku University.

Considering the future of Japanese universities, the admission of international students is urgently needed. However admitting without appropriate management became a problem at a certain university that enrolled a large number of international students is fresh in my memory. The risk can be sufficiently avoided if the management of the faculty done properly and the relationship with the affiliated school is properly established. Then the university can avoid capacity shortage and survive. However, there are also various problems in our university. The purpose of this article is to clarify the problems and seek a good solution in our relationship with international students.

Keyword : International students, graduate school, support system

1 はじめに

北陸大学経済経営学部では、留学生の在籍者が多く、大学院に進学希望する留学生が多い。本学の経済経営学部以外の国際コミュニケーション学部や留学生別科にも留学生の在籍数が多い。本稿では特に筆者が所属する経済経営学部において、留学生の大学院進学希望者に対する受験準備の取り組みへのサポートについて、筆者のゼミにおいて過去 5 年間の報告を行うこととともに課題を考察することにある。

少子高齢化といわれ定員割れを起こす大学が存在する。一方、グローバル化によって留学生の入学を検討している大学が多い。留学生への支援実績の取り組みの現状を報告することによって、留学生への進学支援とその結果である大学院合格実績を整理し、今後の課題を探ることに意義があると思われる。

*北陸大学経済経営学部 Faculty of Economics and Management, Hokuriku University

図1 「留学生数の推移(各年5月1日現在)」

年	留学生総数	国費・政府派遣・私費留学生内訳			在籍機関内訳	
		国費留学生数	外国政府派遣留学生数	私費留学生数	高等教育機関	日本語教育機関
昭和53年	5,849人	1,075人	0人	4,774人	5,849人	
昭和54年	5,933人	1,183人	105人	4,645人	5,933人	
昭和55年	6,572人	1,369人	419人	4,784人	6,572人	
昭和56年	7,179人	1,578人	475人	5,126人	7,179人	
昭和57年	8,116人	1,777人	662人	5,677人	8,116人	
昭和58年	10,428人	2,082人	863人	7,483人	10,428人	
昭和59年	12,410人	2,345人	798人	9,267人	12,410人	
昭和60年	15,009人	2,502人	774人	11,733人	15,009人	
昭和61年	18,631人	3,077人	895人	14,659人	18,631人	
昭和62年	22,154人	3,458人	995人	17,701人	22,154人	
昭和63年	25,643人	4,118人	976人	20,549人	25,643人	
平成元年	31,251人	4,465人	934人	25,852人	31,251人	
平成2年	41,347人	4,961人	1,026人	35,360人	41,347人	
平成3年	45,066人	5,219人	1,072人	38,775人	45,066人	
平成4年	48,561人	5,699人	1,058人	41,804人	48,561人	
平成5年	52,405人	6,408人	1,214人	44,783人	52,405人	
平成6年	53,787人	6,880人	1,330人	45,577人	53,787人	
平成7年	53,847人	7,371人	1,231人	45,245人	53,847人	
平成8年	52,921人	8,051人	1,297人	43,573人	52,921人	
平成9年	51,047人	8,250人	1,524人	41,273人	51,047人	
平成10年	51,298人	8,323人	1,585人	41,390人	51,298人	

年	留学生総数	国費・政府派遣・私費留学生内訳			在籍機関内訳	
		国費留学生数	外国政府派遣留学生数	私費留学生数	高等教育機関	日本語教育機関
平成11年	55,755人	8,774人	1,542人	45,439人	55,755人	
平成12年	64,011人	8,930人	1,441人	53,640人	64,011人	
平成13年	78,812人	9,173人	1,369人	68,270人	78,812人	
平成14年	95,550人	9,009人	1,517人	85,024人	95,550人	
平成15年	109,508人	9,746人	1,627人	98,135人	109,508人	
平成16年	117,302人	9,804人	1,906人	106,592人	117,302人	
平成17年	121,812人	9,891人	1,903人	110,018人	121,812人	
平成18年	117,927人	9,869人	1,956人	106,102人	117,927人	
平成19年	118,498人	10,020人	2,181人	106,297人	118,498人	
平成20年	123,829人	9,923人	2,681人	111,225人	123,829人	
平成21年	132,720人	10,168人	3,235人	119,317人	132,720人	
平成22年	141,774人	10,349人	3,505人	127,920人	141,774人	
平成23年	163,697人	9,396人	3,763人	150,538人	138,075人	25,622人
平成24年	161,848人	8,588人	4,068人	149,192人	137,756人	24,092人
平成25年	168,145人	8,529人	3,999人	155,617人	135,519人	32,626人
平成26年	184,155人	8,351人	3,996人	171,808人	139,185人	44,970人
平成27年	208,379人	9,223人	3,737人	195,419人	152,062人	56,317人
平成28年	239,287人	9,481人	3,682人	226,124人	171,122人	68,165人
平成29年	267,042人	9,166人	3,760人	254,116人	188,384人	78,658人
平成30年	298,980人	9,423人	3,733人	285,824人	208,901人	90,079人

(出所：独立行政法人日本学生支援機構 (2019))

図2 「大学院・大学(学部)・短期大学・高等専門学校・専修学校(専門課程)・準備教育課程・日本語教育機関における留学生数の推移」

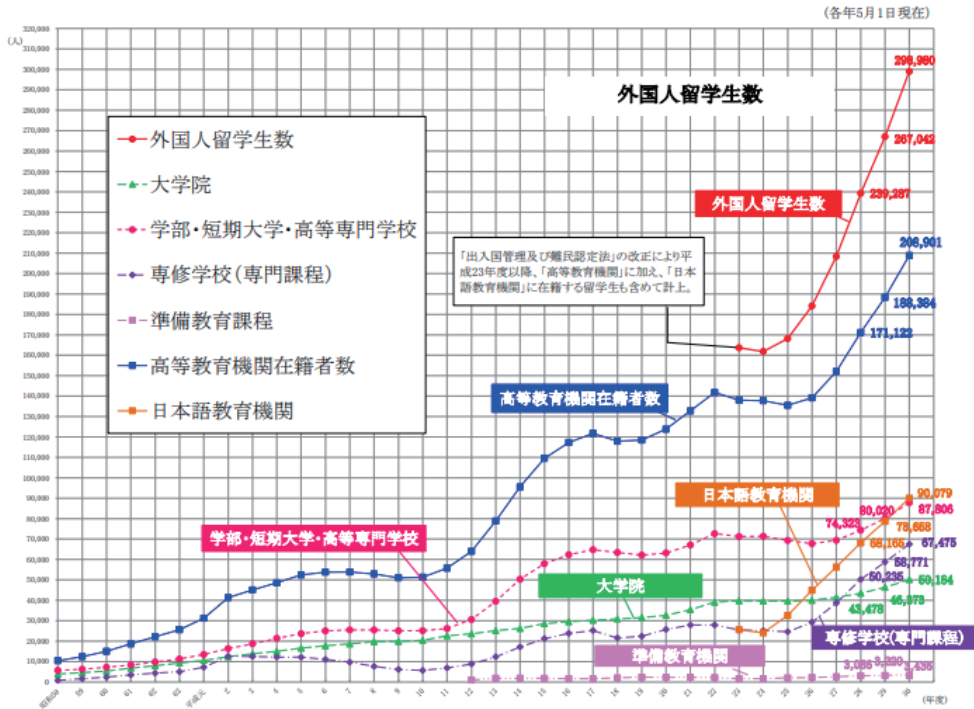
年	留学生総数	高等教育機関				日本語教育機関
		大学院	学部・短期大学・高等専門学校	専修学校(専門課程)	準備教育機関	
昭和58年	10,428人	3,905人	5,693人	830人		
昭和59年	12,410人	4,590人	6,216人	1,604人		
昭和60年	15,009人	5,384人	7,201人	2,424人		
昭和61年	18,631人	6,838人	8,291人	3,502人		
昭和62年	22,154人	8,035人	9,803人	4,316人		
昭和63年	25,643人	9,354人	11,246人	5,043人		
平成元年	31,251人	10,568人	13,486人	7,197人		
平成2年	41,347人	12,383人	16,390人	12,574人		
平成3年	45,066人	13,816人	18,710人	12,540人		
平成4年	48,561人	15,004人	21,364人	12,193人		
平成5年	52,405人	16,592人	23,677人	12,136人		
平成6年	53,787人	17,740人	25,009人	11,038人		
平成7年	53,847人	18,645人	25,477人	9,725人		
平成8年	52,921人	19,779人	25,504人	7,638人		
平成9年	51,047人	19,856人	25,052人	6,139人		
平成10年	51,298人	20,483人	25,159人	5,656人		
平成11年	55,755人	22,679人	26,160人	6,916人		
平成12年	64,011人	23,585人	30,612人	8,815人	999人	

年	留学生総数	高等教育機関				日本語教育機関
		大学院	学部・短期大学・高等専門学校	専修学校(専門課程)	準備教育機関	
平成13年	78,812人	25,146人	39,502人	12,324人	1,840人	
平成14年	95,550人	26,229人	50,321人	17,173人	1,827人	
平成15年	109,508人	28,542人	57,911人	21,233人	1,822人	
平成16年	117,302人	29,514人	62,311人	23,833人	1,644人	
平成17年	121,812人	30,278人	64,774人	25,197人	1,563人	
平成18年	117,927人	30,910人	63,437人	21,562人	2,018人	
平成19年	118,498人	31,592人	62,159人	22,399人	2,348人	
平成20年	123,829人	32,666人	63,175人	25,753人	2,235人	
平成21年	132,720人	35,405人	67,108人	27,914人	2,293人	
平成22年	141,774人	39,097人	72,665人	27,872人	2,140人	
平成23年	163,697人	39,749人	71,244人	25,463人	1,619人	25,622人
平成24年	161,848人	39,641人	71,361人	25,167人	1,587人	24,092人
平成25年	168,145人	39,567人	69,339人	24,586人	2,027人	32,626人
平成26年	184,155人	39,979人	67,782人	29,227人	2,197人	44,970人
平成27年	208,379人	41,396人	69,405人	38,654人	2,607人	56,317人
平成28年	239,287人	43,478人	74,323人	50,235人	3,086人	68,165人
平成29年	267,042人	46,373人	80,020人	58,771人	3,220人	78,658人
平成30年	298,980人	50,184人	87,806人	67,475人	3,436人	90,079人

※「出入国管理及び難民認定法」の改正(平成21年7月15日公布)により、平成22年7月1日付けで在留資格「留学」「就学」が一本化されたことから、平成23年5月以降は日本語教育機関に在籍する留学生も含めた留学生数も計上。

(出所：独立行政法人日本学生支援機構 (2019))

図3 「外国人留学生の内訳」



(出所：独立行政法人日本学生支援機構 (2019))

日本学生支援機構 (2019) における図1 から図3 までをみると、年々留学生数の増加傾向がうかがえる。また、その中でも大学院進学者の推移が上がってきていることが確認できる。

2 経済経営学部の留学生の現状

留学生の大学院進学希望者は年々増加している。北陸大学経済経営学部 (以下、本学部) においても毎年多くの留学生を受け入れ、その支援を行っている。主に中国人留学生が多く在籍する。3 年次編入留学においては、北陸大学の提携校からの受け入れのみを行っており、その他の留学生は別の入試形態で入学することになる。本学部の特徴として、2+2 制度を採用しており、中国での学士と日本での学士の両方を取得できるダブルディグリー制度となっている。そのため、3 年次に本学部に入學し、2 年を経て卒業することになる。大学全体では、主に、3 年次に毎年約 150 名の留学生を受け入れるため、3・4 年での合計数は 300 名を超える規模である。3 年次の進路希望調査では、おおよそ 8 割の学生が大学院進学を希望している。2019 年度の本大学の留学生在籍者数は、2020 年 3 月 15 日現在、160 名 (男 55 名・女 105 名 (入学してから退学者を除き卒業した人数)) おり、その中で、最終的な進学希望者が 63 名おり、決定者は 58 名である。また、2018 年度年度の本大学の留学生在籍者数は、2019 年 3 月 26 日現在、154 名 (男 54 名・女 100 名 (入学してから退学者を除いた卒業した人数)) おり、その中で大学院進学希望者は、105 名おり、決定者は 71 名であった。しかし、卒業近くの集計のため、大学院に合格しなかった学生は最終希望進路を進学から帰国などに変更した後の数字である。よって、進学希望者は 4 年の冬にはかなりの数がいたと推測される。

中国提携校の多くの学生は、2 年次までの専門が文学部日本語学科である。必然的に日本語 2 級・1 級を取得するものが多く、3 年次に編入留学をしても日本語による授業にほとんど支障がない状態で始る。

中国での年度開始は、日本と半年ずれており 9 月入学である。そのため、本学に 4 月入学ま

でに半年間の空白が生じる。その期間を有効活用する学生が多い。日本語に不慣れな学生は、本学の留学生別科に半年早く入学し、約半年間留学生別科で日本語を学び、半年後の4月に本学部に入学する。

留学生は、中国での取得単位一括60単位を認められ、残り68単位を本学で取得し、合計128単位を取得し卒業する。本学では、留学生専用の科目が複数あり、日本人専用科目・留学生専用科目・日本人と留学生共通科目が存在する。もともとは日本人と留学生の共通科目が多く存在していたが、日本人と留学生のレベルの差異が大きく、また目的も違うため、科目やゼミまでも専用クラスが用意されている。本学では、留学生用に「経済」「経営」「法律」「IT」「会計」の専門を用意し、入学後、それぞれの希望した専門に振り分けられる。ただし、教員数などの制約もあり、すべての留学生が希望の専門に入れるわけではないことは課題として残る。特に希望が多い専門は「経営」であり、希望が少ない専門は「法律」である。その理由としては、日本の法律を将来に活かす機会が少ないと感じる学生が多いと推測する。また、ビジネスで活用したいと考える経営学が志望として多く集まる傾向がある。「経済」は、難解な数学を必要とする理由で敬遠され、「会計」に関しては、本学では「会計学入門」という科目で簿記3級から始まる。しかし、大学院入試に必要な財務会計・管理会計・国際会計までかなりの量があるため、時間的に間に合わないと感じる学生は敬遠する。

大学院入試の始まる時期であるが、早い時期では、令和2年4月28日締め切りの北陸先端科学技術大学院大学（第一期入試）などをはじめとして、徐々に始まる。よって、留学生は、早い者は3年生で学んだ専門を本学に入学後わずか1年後に入試を受けざるを得ない状況になっている。大学院側の要求は各大学院によって異なる。ほとんどの大学院では、日本語1級・専門試験・英語試験・研究計画書・面接の試験内容で構成されているため、留学生は3年次にこれらをクリアすべき熱心に努力している。それゆえ、3年次編入段階では、大学院進学を希望しているものの、その厳しさゆえ4年次に諦め、日本での就職や帰国を選択する留学生も増加する。

留学生の入学を確保したいのであれば、留学生が希望する大学院合格のために大学のサポートが必要である。その合格実績から次年度の留学生の入学数を確保できるというスパイラルとなるため合格実績が次の留学生の確保につながることは言うまでもない。筆者が中国提携校に行った時に、前日に、ある大学の説明会が行われていたようであった。黒板に書いてあった日本の他校の説明会の内容を消していなかったため、どこの大学が来たのか把握できたが、留学生争奪戦が行われていると感じた。

3 専門ゼミナール（3年ゼミ）での留学生支援体制

3-1 専門ゼミナールでの支援体制について

本学部の筆者のゼミにおいて、留学生大学院希望者に対する支援体制がどのように行われているのかを記述していく。

以下は、直近5年間の支援である。筆者が行ったものは、8年前から存在するが、直近の支援体制を取り上げる。取り組みとして、学部で行ったもの、筆者のゼミで行ったものがあるため、その区分ごとに記述する。

3-2 2015年度の支援事業

- ・2015年4月23日 筆者ゼミにて ジョンソン&ジョンソン株式会社のマーケティング担当者の職業座談会開催（マーケティングの仕事や大学院で研究すること）。筆者の大学院時代の同期に依頼。
- ・2015年5月2日 筆者ゼミ 研究室にて大学院入試概要について実施。
- ・2015年5月27日 筆者ゼミ 研究室にて金沢大学大学院合格者の先輩体験談開催。
- ・2015年6月18日 筆者ゼミ 研究室とゼミの時間にて、京都大学大学院と立命館大学大学院の修士1年生の合格体験会開催。
- ・2015年7月23日 学部主催 「ようこそ先輩」大学院合格体験会座談会開催。

- ・2015年8月10日 筆者ゼミ 研究室にて明治大学大学院修士2年生・早稲田大学大学院修士2年生の合格体験会開催。
- ・2015年9月19日 筆者ゼミ 研究室にて埼玉大学大学院修士1年生・明治大学大学院修士1年生1名・静岡大学大学院修士1年生の3名で大学院合格体験談開催。
- ・2015年10月15日 筆者ゼミ 研究室にて大阪大学大学院合格4年生の合格体験談開催。
- ・2015年10月22日 筆者ゼミ ゼミ授業内にて、東京大学大学院合格4年生・北陸先端科学技術大学院大学合格4年生・ラオックス(株)内定4年生の体験談開催。
- ・2015年10月29日 筆者ゼミ ゼミ授業内において、静岡大学大学院合格4年生(在学生)・富山大学大学院合格4年生(在学生)の体験談開催。
- ・2015年11月2日から3日 筆者ゼミ活動として、山中セミナーハウス合宿において、3年生4年生合同の勉強会開催。
- ・2015年11月27日 筆者ゼミ 研究室にて京都大学大学院修士1年生2名の合格体験記を開催の後、3年生向けに大学院の研究計画書の書き方を開催。
- ・2015年12月11日 筆者ゼミ 研究室にて、3年生向けに研究計画書の書き方2回目を開催。
- ・2015年12月18日 学部主催 北陸先端科学技術大学院大学訪問。
- ・2015年12月31日 筆者ゼミ主催 埼玉大学大学院訪問。
- ・2016年3月22日 学部主催 大学院ツアー 早稲田大学大学院訪問・中央大学大学院訪問・その後、大学院合格した修士1年生先輩を招いて座談会開催。
- ・2016年3月23日 学部主催 大学院ツアー2日目。東京大学大学院訪問・明治大学大学院訪問。

3-3 2016年度の支援事業

- ・2016年4月8日 学部主催 「ようこそ先輩」4人の先輩方の大学院体験記開催。九州大学大学院2名・京都大学大学院・関西学院大学大学院の計4名。
- ・2016年4月27日 筆者ゼミ 研究室にて研究計画書の書き方実施。
- ・2016年5月6日 筆者ゼミ 研究室にて九州大学大学院合格4年生の合格体験座談会開催。
- ・2016年5月9日 筆者ゼミ 研究室にて金沢大学大学院2年生の合格体験座談会開催。
- ・2016年5月17日 学部主催 大学院進学説明会開催。
- ・2016年5月31日 筆者ゼミ ゼミ授業内にて、早稲田大学大学院修士2年の2名の合格座談会開催。
- ・2016年6月24日 筆者ゼミ 研究室にて 香港大学大学院1年の合格体験記座談会開催。
- ・2016年7月15日 学部主催 中国提携校教員来日視察現状報告会。
- ・2016年7月15日 学部主催 大学院進学説明会。
- ・2016年7月22日 筆者ゼミ 研究室にて立命館大学大学院1年生合格座談会開催。
- ・2016年7月23日～24日 筆者ゼミ 山中セミナーハウス3年4年合同勉強会開催。
- ・2016年8月2日 筆者ゼミ ゼミ時間内にて富山大学大学院合格4年生2名合格座談会開催。
- ・2016年9月30日 筆者ゼミ 研究室にて大学院全体説明会開催。
- ・2016年11月11日 学部主催 富山大学大学院見学会開催。
- ・2016年11月17日 学部主催 研究計画書の書き方開催(筆者が講師担当)。
- ・2016年11月22日 就職課主催 大学院ガイダンス就職ガイダンス開催。
- ・2016年11月26日 学部主催 北陸先端科学技術大学院大学オープンキャンパス訪問。
- ・2016年11月28日 筆者ゼミ 研究室にて日本大学大学院合格体験記開催。
- ・2016年11月30日 学部主催 兵庫県立大学大学院説明会開催(本学にて)。
- ・2016年12月7日 筆者ゼミ 大学院ガイダンス研究計画書の書き方開催。
- ・2016年12月14日 筆者ゼミ 研究室にて留学生による就職ガイダンス開催。(内定留学生との座談会)
- ・2017年1月24日 大学主催 留学生別科懇親会開催。
- ・2017年1月26日 就職課主催 大学院模擬面接講座開催(筆者が講師担当)。

- ・2017年3月22日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）明治大学大学院訪問・青山学院大学大学院訪問。その後、卒業生の大学院修士生との座談会。
- ・2017年3月23日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）早稲田大学大学院訪問・芝浦工業大学大学院・東京理科大学大学院訪問。

3-4 2017年度の支援事業

- ・2017年5月26日 筆者ゼミ 研究室にて富山大学大学院1年生との座談会開催。
- ・2017年6月21日 就職課主催（筆者司会）本学にて富山大学大学院説明会開催。
- ・2017年6月27日 就職課主催（筆者司会）本学にて北陸先端科学技術大学院大学説明会開催。
- ・2017年6月29日 就職課主催（筆者司会）本学にて追手門大学大学院説明会開催。
- ・2017年7月5日 就職課主催（筆者司会）本学にて立命館大学大学院説明会開催。
- ・2017年7月12日 就職課主催（筆者司会）本学にて早稲田大学大学院説明会開催。
- ・2017年7月13日 大学主催 中国提携校の教員との共同プログラム実務者研修会開催。
- ・2017年7月18日 就職課主催（筆者司会）本学にて兵庫県立大学大学院説明会開催。
- ・2017年8月1日 筆者ゼミ 研究室にて富山大学大学院1年生3人と座談会開催。
- ・2017年8月7日 筆者ゼミ 研究室にて大学院ガイダンス開催。
- ・2017年8月8日 筆者ゼミ 明治大学大学院会計専門職大学院研究科長打ち合わせと大学案内。
- ・2017年10月4日 筆者主催研究室にて武蔵野大学大学院1年生と座談会開催。
- ・2017年10月6日 就職課主催 本学にて明治大学大学院会計専門職大学院説明会開催。
- ・2017年10月24日 筆者ゼミ 東京大学大学院・大阪大学大学院・神戸大学大学院合格体験座談会開催。
- ・2017年11月2日 筆者ゼミ ゼミ内にて明治大学大学院合格体験座談会開催。
- ・2017年11月6日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）立命館大学大学院訪問。夜は卒業生交えての座談会。
- ・2017年11月7日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）京都大学大学院・大阪大学大学院訪問。
- ・2017年11月8日 筆者ゼミ 研究室にて研究計画書の書き方開催。
- ・2017年11月29日 筆者ゼミ 立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科研究科長打ち合わせと大学案内。
- ・2017年12月19日 就職課主催（筆者講師）本学にて研究計画書の書き方開催。
- ・2017年12月20日 就職課主催 本学にて立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科説明会開催。
- ・2018年1月10日 就職課主催（筆者講師）留学生のための就職活動説明会開催。
- ・2018年1月23日 就職課主催 大学院模擬面接講座開催（筆者講師）。
- ・2018年1月26日～27日 筆者ゼミ 山中セミナーハウス3年4年合同勉強会開催。
- ・2018年1月30日 筆者ゼミ 研究室にて研究計画書の書き方開催。
- ・2018年3月29日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）明治大学大学院訪問・青山学院大学大学院訪問。その後、卒業生の大学院生徒の座談会。
- ・2017年3月30日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）早稲田大学大学院訪問。

3-5 2018年度の支援事業

- ・2018年4月29日 筆者主催研究室にて 北海道大学大学院1年生と座談会開催。
- ・2018年4月29日 就職課主催 「ようこそ先輩」座談会開催。
- ・2018年5月15日 就職課主催（筆者司会）本学にて、北陸先端科学技術大学院大学説明会開催。
- ・2018年5月24日 就職課主催（筆者司会）本学にて、立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科説明会開催。

- ・2018年6月20日 筆者ゼミ 研究室にて立命館大学大学院1年生と座談会開催。
- ・2018年7月3日 就職課主催（筆者司会）本学にて、立命館大学大学院経営学研究科説明会開催。
- ・2018年7月10日 就職課主催（筆者司会）本学にて早稲田大学大学院説明会開催。
- ・2018年7月12日 大学主催 中国提携校教員との共同プログラム実務者研修会開催。
- ・2018年7月17日 就職課主催（筆者司会）本学にて兵庫県立大学大学院説明会開催。
- ・2018年7月24日 就職課主催 本学にて明治大学大学院会計専門職大学院説明会開催。
- ・2018年8月9日～10日 就職課主催（筆者担当）本学にて 大学院強化プログラム開催。（経済・経営・会計・金融に分かれ本学卒業生の大学院合格者を呼び中国語で勉強・研究計画書指導）。
- ・2018年10月15日 筆者ゼミ 研究室にて富山大学大学院1年生との座談会主催。
- ・2018年10月23日 就職課主催（筆者司会）本学にて立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科説明会開催。
- ・2018年10月26日 筆者ゼミ 研究室にて研究計画書の書き方開催。
- ・2018年11月16日 就職課主催（筆者司会）本学にて広島市立大学大学院説明会開催。
- ・2018年11月22日 就職課主催（筆者司会）本学にて追手門大学大学院説明会開催。
- ・2019年1月8日 筆者ゼミ主催 研究室にて慶応義塾大学大学院・中央大学大学院・立教大学大学院・立命館大学大学院合格4年生4名と座談会開催。
- ・2019年1月23日 筆者ゼミ研究室にて研究計画書の書き方開催。
- ・2019年3月28日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）明治大学大学院訪問・早稲田大学大学院訪問。その後、卒業生の大学院生徒の座談会。
- ・2019年3月29日 就職課主催 大学院見学ツアー（筆者引率）青山学院大学大学院訪問。

3-6 2019年度の支援事業

- ・4月15日～9月20日まで 就職課主催（筆者担当）E-learning 開始。本学部出身の卒業生で大学院博士後期課程在学を講師とし、中国語で専門分野ごとに講義を行う。単位のある授業は日本語で行っているため、理解できなかった箇所の指導を行う。1回につき3時間を20回、週一回で9月まで開催。
- ・2019年4月20日 就職課主催 「ようこそ先輩」座談会開催。
- ・2019年5月22日 筆者ゼミ ゼミ内にて立命館大学大学院・明治大学大学院との座談会主催。大学ホームページに掲載（<https://www.hokuriku-u.ac.jp/sptopics/201905231156.html>）。
- ・2019年6月4日 筆者ゼミ 研究室にて金沢大学大学院1年生の座談会主催。
- ・2019年6月20日 就職課主催（筆者司会）本学にて立命館大学大学院テクノロジーマネジメント研究科説明会開催。
- ・2019年7月12日 大学主催 中国提携校の教員との共同プログラム実務者研修会開催。
- ・2019年7月26日 就職課主催（筆者司会）本学にて明治大学大学院会計専門職大学院説明会開催。
- ・2019年7月30日 筆者ゼミ 研究室にて立命館大学大学院合格4年生の座談会主催。
- ・2019年11月5日 筆者ゼミ 研究室にて東京大学大学院合格4年生・大阪大学大学院合格4年生の座談会主催。
- ・2019年11月22日～23日 筆者ゼミ 山中セミナーハウス3年4年合同勉強会開催。
- ・2019年11月28日 筆者ゼミ 研究室にて大学院ガイダンス開催。
- ・2019年11月29日 就職課主催（筆者司会）本学にて追手門大学大学院説明会開催。
- ・2019年12月25日 就職課主催 大学院模擬面接講座開催（筆者担当）。
- ・2020年1月21日 筆者ゼミ 研究室にて研究計画書の書き方開催。

2020年度のはじめとして

- ・4月13日から9月25日まで 就職課主催（筆者担当）E-learning 開始。本学部卒業生で大学院博士後期課程の学生を講師として中国語で各専門分野に分かれ授業を行う。日本語で

理解できなかった箇所の指導を行う。午前中 1 時間×3 コマ 3 時間と午後はグループに分かれて研究計画書の支援。

この後は、コロナの影響により大幅な変更。E-learning は行っているものの、対面での支援は一時中断状態とし、遠隔での指導となる。

3-7 考察

データやインタビューを行っていないので推測ではあるが、留学生が編入し、1 年で受験体制となるため、日本の大学院受験に関しての知識はあまり持っていないようである。中国での大学院試験は国立のため統一試験である。日本では研究科ごとに試験内容や要求が異なる。まずどのような大学院があるのか、どのような試験対策が必要であるのか等の支援が初めに必要である。その次に、研究科の内容と合格した先輩の体験談を行うことによって理解を深めていく必要がある。その結果の効果は、以下の合格数をみても効果があったと判断できる。ただし、これにかかる準備と負担は相当なものがあり、課題として、教員の負担が大きいことは言うまでもない。

4 大学院合格実績

表 1 は、北陸大学における過去 3 年間 2015 年 2016 年 2017 年の合格数の表である。1 年ごとの合格者数が把握できなかったため 3 年間の合計者数を記載する。以下の表で確認されたい。ただし直近の 2018 年と 2019 年においては表 2、表 3 として各年別の合格実績を掲載する。ただし、専攻分野の集計と大学別合格数は調査できなかったため、合格人数のみを記載する。筆者のゼミでも多くの合格者数を輩出している。大学で行った支援事業と筆者の支援での合格の区別がつかず、因果が特定できないため、筆者のゼミ合格者数の掲載は割愛する。しかし、2019 年度においての筆者のゼミ生は大学院希望者全員合格 (14 名 17 校) したため、合格率 100% として支援に対して特に高い効果があったと推測する。

表 1 「2015 年 2016 年 2017 年の合計合格実績数」

大学名	大学院研究科	専攻分野	過去 3 年間の合格者数	大学別合計数
明治大学	明治大学会計専門職大学院	会計学	9	19
明治大学	明治大学大学院経営学研究科	経営学	2	19
明治大学	明治大学大学院経済学研究科	経済学	1	19
明治大学	明治大学大学院商学研究科	商学	6	19
明治大学	明治大学大学院政治経済学研究科	政治経済学	1	19
北陸先端科学技術大学院大学	北陸先端科学技術大学院大学知識マネジメント領域	情報系	6	18
北陸先端科学技術大学院大学	北陸先端科学技術大学院大学ヒューマンライフデザイン領域	情報系	5	18
北陸先端科学技術大学院大学	北陸先端科学技術大学院大学知識科学系	情報系	4	18
北陸先端科学技術大学院大学	北陸先端科学技術大学院大学情報科学系	情報系	3	18

立命館大学	立命館大学大学院 MOT 研究科	MOT	3	17
立命館大学	立命館大学大学院経営学研究科	経営学	6	17
立命館大学	立命館大学大学院経済学研究科	経済学	1	17
立命館大学	立命館大学大学院社会学研究科	社会学	1	17
立命館大学	立命館大学大学院スポーツ健康化学研究科	スポーツ科学	1	17
立命館大学	立命館大学大学院政策科学研究科	政策科学	5	17
早稲田大学	早稲田大学大学院商学研究科	商学	8	9
早稲田大学	早稲田大学大学院法学研究科	法学	1	9
富山大学	富山大学大学院経済学研究科	経済学	8	8
大手門学院大学	追手門学院大学大学院経営学研究科	経営学	7	7
青山学院大学	青山学院大学大学院国際マネジメント研究科	経営学	4	6
青山学院大学	青山学院大学大学院経営学研究科	経営学	1	6
青山学院大学	青山学院大学大学院商学研究科	商学	1	6
神戸大学	神戸大学大学院経営学研究科	経営学	3	5
神戸大学	神戸大学大学院経済学研究科	経済学	1	5
神戸大学	神戸大学大学院法学研究科	法学	1	5
一橋大学	一橋大学国際公共政策大学院	公共政策	1	5
一橋大学	一橋大学大学院商学研究科	商学	4	5
大阪大学	大阪大学大学院経済学研究科	経済学	4	4
関西大学	関西大学大学院会計専門職研究科	会計学	3	4
関西大学	関西大学大学院法学研究科	法学	1	4
同志社大学	同志社大学大学院商学研究科	商学	3	4
同志社大学	同志社大学大学院総合政策科学研究科	政策科学	1	4
亜細亜大学	亜細亜大学大学院アジア国際経営研究科	経営学	2	3
亜細亜大学	亜細亜大学アジア国際経営研究科	経営学	1	3
慶應義塾大学	慶應義塾大学大学院経営管理研究科	経営学	2	3
慶應義塾大学	慶應義塾大学大学院商学研究科	商学	1	3
東京大学	東京大学大学院経済学研究科	経済学	2	3
東京大学	東京大学公共政策大学院	公共政策	1	3
兵庫県立大学	兵庫県立大学大学院会計学研究科	会計学	3	3
北海道大学	北海道大会計専門職大学院	会計学	2	3
北海道大学	北海道大学大学院経済学研究科	経済学	1	3
横浜国立大学	横浜国立大学大学院国際社会科学府経営学専攻	経営学	3	3
静岡大学	静岡大学大学院人文社会科学研究科	人文	2	2

(英) ウォーリック大学	(英) ウォーリック大学		1	1
(英) グラスゴー大学大学院国際金融	(英) グラスゴー大学大学院国際金融		1	1
(英) ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン	(英) ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン		1	1
(豪) オーストラリア国立大学	(豪) オーストラリア国立大学		1	1
(豪) クイーンズランド大学大学院	(豪) クイーンズランド大学大学院		1	1
(豪) シドニー大学大学院(ビジネススクール)	(豪) シドニー大学大学院(ビジネススクール)		1	1
(豪) マッコリー大学	(豪) マッコリー大学		1	1
(新) オークランド工科大学	(新) オークランド工科大学		1	1
桜美林大学	桜美林大学大学院経営学研究科	経営学	1	1
金沢大学	金沢大学大学院人間社会環境研究科		1	1
九州大学	九州大学大学院経済学府研究科	経済学	1	1
埼玉大学	埼玉大学大学院経営学研究科	経営学	1	1
島根県立大学	島根県立大学大学院北東アジア開発研究科		1	1
城西国際大学	城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科	経営学	1	1
上智大学	上智大学大学院経済学研究科	経済学	1	1
大東文化大学	大東文化大学大学院法学研究科	法学	1	1
拓殖大学	拓殖大学大学院地方政治研究科	政治学	1	1
東北大学	東北大学大学院経済学研究科	経済学	1	1
名古屋市立大学	名古屋市立大学大学院経済研究科	経済学	1	1
日本大学	日本大学大学院商学研究科	商学	1	1
法政大学	法政大学大学院法学研究科	法学	1	1
名城大学	名城大学大学院商学研究科	商学	1	1
横浜市立大学	横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科	経営学	1	1
立教大学	立教大学大学院経営学研究科	経営学	1	1
大阪経済大学	大阪経済大学大学院経営学研究科	経営学	1	1
	総合計		151	

(出典：北陸大学進路支援課の資料を基に筆者加筆)

表2「2018年の合計合格実績数(2019年3月15日集計)」

大学院名	合格者数
立命館大学大学院	12
明治大学大学院	9
北陸先端科学技術大学院大学	6
北海道大学大学院	6
神戸大学大学院	5
早稲田大学大学院	5

富山大学大学院	3
大手門学院大学大学院	3
立教大学大学院	3
大阪大学大学院	2
金沢大学大学院	2
青山学院大学大学院	2
中央大学大学院	2
芝浦工業大学大学院	2
法政大学大学院	2
東京大学大学院	1
兵庫県立大学大学院	1
一橋大学大学院	1
(英) スウォンジー大学大学院	1
(英) シェフィールド大学大学院	1
関西大学大学院	1
慶應義塾大学大学院	1
上智大学大学院	1
専修大学大学院	1
日本大学大学院	1
京都情報大学大学院	1
東北大学大学院	1
近畿大学大学院	1
北九州市立大学大学院	1
関西学院大学大学院	1
お茶の水女子大学大学院	1
金城学院大学大学院	1
国学院大学大学院	1
国土館大学大学院	1
神戸市外国語大学大学院	1
東洋大学大学院	1
神田外国語大学大学院	1
関西外国語大学大学院	1
島根県立大学大学院	1
総合計	88

※1名で複数校合格しているため、71名88校合格。

(出典：北陸大学進路支援課の資料を基に筆者加筆)

表3「2019年の合計合格実績数(2020年3月16日集計)」

大学院名	合格者数
立命館大学大学院	12
明治大学大学院	11
北陸先端科学技術大学院大学	6
大阪大学大学院	5
早稲田大学大学院	3
富山大学大学院	2
追手門学院大学大学院	2
神戸大学大学院	2
関西大学大学院	2
兵庫県立大学大学院	2

一橋大学大学院	1
青山学院大学大学院	1
慶應義塾大学大学院	1
東京大学大学院	1
上智大学大学院	1
東北大学大学院	1
関西学院大学大学院	1
同志社大学大学院	1
名古屋大学大学院	1
埼玉大学大学院	1
愛知大学大学院	1
総合計	58

※複数校の合格を調査できなかったため 58 校合格。

(出典：北陸大学進路支援課の資料を基に筆者加筆)

直近の 2 年間では、2018 年度の合格者数は 71 名であり、2019 年度の合格者数は、58 名であった。合格率の減少は、留学生の受験数増加と大学院の難易度が高くなっている傾向があると推測できる。その背景にあるものは、留学生用の大学院予備校の乱立の存在である。また、大連外国語大学も東京に大学院予備校の校舎を設置した。自校の学生や日本に在留する他の留学生を大学院に合格させるべく東京に進出してきている。このことから有名大学における難易度が上昇していると推測できる。

5 中国提携校との関係

筆者は、留学生担当また就職委員会担当として中国提携校に訪問した。業務内容としては、北陸大学の PR、日本での模擬講義、講演会、質疑応答などである。また、現地入試担当者として提携校での現地入試を行った。また、その他にも各提携校の締結業務、授業プログラムの確認、今後の擦り合わせなどを行った。以下、筆者が訪問した大学である。

筆者が訪問した大学：

天津外国語大学濱海学院・天津外国語大学・天津外国語大学日本語学院・北京語言大学・南京大學・遼寧師範大學・大連外国語大學・大連外国語大學日本語學院・西安外國語大學・四川外國語大學・溫習醫科大學・中國地質大學・瀋陽化工大學・瀋陽航空航天大學・南京大學金陵學院・常熟理工大學・蘇州大學を訪問した。また、それ以外の業務として、孔子學院本部、平成遣中使としても中国を訪問。

提携校への大学訪問の目的の一つとして学生確保がある。大学としてただ待っていただけでは学生確保にはつながらない。提携校は他の大学とも提携しているため、学生の争奪戦が繰り返されている。その中でいかに優秀な学生を確保できるかが課題となっている。

以下、その時の写真である。

写真1「天津外国語大学での会議の様子」

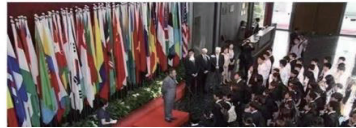


(出所：天津外国語大学にて筆者撮影 2017年9月8日)

写真2「孔子学院本部訪問」



北陸大学理事長小倉勸表示、在孔子学院总部和中国各友好大学的大力支持下，北陆大学孔子学院“平成遣中使”已连续实施11年，应时代要求，活动主题不断变化，但无论是最初的“到中国体验”还是最近的“到中国学习”，团员们都满载而归。未来将继续努力办好“平成遣中使”，为促进两国青少年间的友好交流贡献力量。



(出所：孔子学院本部ホームページより、上は右中、下は真中に筆者 2017年9月12日)

写真3「天津外国語大学講演会での様子」



(出所：天津外国語大学ホームページより 中央に筆者 2018年3月11日)

写真4「北京語言大学会議の様子」



(出所：筆者撮影 2017年9月6日)

写真 5 「北京語言大学でのプログラムについての担当者会議」



(出所：筆者撮影 2017年9月7日)

6 課題

上述した 3・4にて、筆者の留学生支援の状況と大学院希望者の合格者数を確認できた。優秀な留学生を確保するには、留学生が希望する大学院合格実績を作り、それを根拠に提携校との良好な関係を築く必要がある。グローバル時代に留学生受け入れを政府は推奨している反面、受け入れによって課題も浮き彫りとなってくる。

まず、日本人学生との共存の課題である。本学部での日本人のレベルと留学生のレベルの差が目立ち、同じ科目を日本人専用と留学生専用クラスに分ける必要が出てきた。本学部だけの課題かも知れないが、2 極化する傾向にある。ディプロマポリシーは大学としての統一基準であるため、絶対評価にすると S 評価のインフレが起きる（本学の基準は 100 点中 90 点以上のものに S 評価）それを回避すべく日本人クラスと留学生クラスを分け相対評価にすると、留学生クラスの成績基準が日本人クラスより厳しくなり不公平な基準で評価が行われる。よって、成績だけでなく、本学での活動や奨学金など様々な個所でダブルスタンダードがみられる傾向がある。

2 つ目に、日本人と留学生の交流の課題である。筆者のゼミでも起こった事例であるが、日本人と留学生の混成ゼミにするとほとんど交わらない。3・4 年ゼミの人数は本学では各学年おおよそ 25 名となっているため日本人 12 名対留学生 13 名となる（ゼミによって比率は異なる）。提携校からの留学生ということで留学生同士の集団ができ、あまり交流が見られない傾向にある。

3 つ目に、教員の仕事量の負担増である。3 で掲げたものは支援事業であるが、本学では研究計画書の作成支援は専門性ゆえ、そのゼミの担当者が行わなければならない。日本語 1 級試験（年 2 回）、英語試験、専門（経営学など）、研究計画書指導、大学院に関する支援をすべて行うことはとても負担が大きく、本学部でも敬遠する教員も見受けられる。2020 年度の筆者の 4 年ゼミ生数は、25 名在籍し（2020 年は留学生 21 名日本人 4 名の混成ゼミ）、15 名が大学院進学希望者である。帰国希望や日本での就職希望者もいるため、かなりの負担を感じるのも事実である。大学がその実態を把握し、全面的な支援を行えないと不可能な業務量となる。また、最近では減少傾向にあるが、留学生の犯罪に関する課題、文化の違いに関する課題など細かい課題も見受けられる。これらを包括し、すべて理解した上での留学生受け入れ態勢を整えることが必要である。

筆者の一番の課題は、研究計画書の指導であった。特に時間を使う業務である。研究についての考え方を説明し、各々の留学生に対し、先行研究から課題を出し、完成させるまで、1名10回程度の指導を行った。また、直前には、模擬面接指導、推薦書、その他の資料チェックなど細かい指導が必要であった。これを考えると教員の負担と効率的な指導の課題が残る。本稿では筆者の指導方法は割愛するが、次回の稿で述べたいと考える。

おわりに

今後の日本の大学経営を考えると留学生の入学は各大学にとって必要なことである。そのなかで、東京富士大学では、留学生を大量に入学させ、管理の不十分さを露呈し問題になった事件は記憶に新しい。本学部の事例で挙げた、科目での日本人との別クラスの事例や出口である進路先に関するサポートでの管理方法・提携校との適切な関係を築ければ、そのリスクは十分に回避することができる。また、大学も生き残りをかけた学生確保の一助となることできる。しかし、筆者ゼミでも見られたような課題も存在する。そこはゆっくりと解決しながら長い友好関係を崩さぬよう改善することで大学経営の一つの形としての在り方を提示できるものと確信する。改善を行いながら研究を続けたい。

参考文献

- ・浅井尚子 「大学院進学希望者の受験準備の現状と課題」拓殖大学日本語教育研究 第3号 2018年.
- ・浅井尚子 「先輩留学生を活用した大学院進学コースの取り組みと課題」拓殖大学日本語教育研究 第4号 2019年.
- ・小倉祥子・安立奈歩・加藤容子 「四年制大学進学女性のライフコース分析(1)―職業・子育て・結婚の価値観尺度の開発―」椋山女学園大学研究論集 第42号 社会科学編 2011年.
- ・小倉祥子・安立奈歩・加藤容子 「四年制大学進学女性のライフコース分析(2)―卒業生アンケート調査の主計結果―」椋山女学園大学研究論集 第43号 社会科学編 2012年.
- ・杉田陽出 「大阪商業大学における異文化コミュニケーション教育の取り組み―平成24年度前期の授業から―」大阪商業大学論集 第8巻第4号(通号168号) 2013年.
- ・杉田陽出 「大阪商業大学における異文化コミュニケーション教育の取り組み―平成24年度後期の授業から―」大阪商業大学論集 第9巻第2号(通号170号) 2013年.
- ・藤永 博 「大学院留学生のためのアカデミック・ライティング教育について - 教育内容・方法の「形式知化」および「動態化」の必要性 - 」和歌山大学経済学会研究年報第15号 2011年.

インターネット：

- ・独立行政法人日本学生支援機構 「平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果」
https://www.jasso.go.jp/sp/about/statistics/intl_student_e/2018/_icsFiles/afieldfile/2019/01/16/datah30z1.pdf
(2020年5月25日閲覧)

